

病後児保育については

病後児保育については、ふじみ野市としての見解は。

病後児保育の実施は、医療との連携が必要であり、病院施設の一部で実施していたらよいと考えています。実施に当たり、旧市・町が策定済みの次世代育成支援行動計画に基づき、広域による取り組みを視野に入れ、今後東隣医師会の協力のもと、近隣の市長と協議してまいります。

65歳以上の医療費助成 六十五歳以上の老人医療費助成を今後も継続すべきだ。医師会によれば「日本ほど低い医療費で、優れた医療が行なわれている国はない」と評価されている。WHO(世界保健機構)発表では、日本は健康寿命及び健康達成度は世界一位だ。

65歳以上の医療費助成

早期発見・早期治療が医療費を低くしている。年間の必要額は、約二億円です。継続については検討委員会をつくりま

す。

小学校卒業まで医療費の補助

少子化が進む中、子育ての負担軽減とあわせて、子どもたちの成長を応援することは市の大切な仕事。国は、三歳までの医療費を負担するとの方向性を示した。現行の医療費補助を小学校卒業まで拡大できないか。

入院分は、可能なものと考えられます。財源が明らかになっていないので、三カ年実施計画をつくる中で検討し

障がい者と事業者に市独自の軽減策を

障害者自立支援法は、障害者が日常生活に必要なサービスを受ける際、応益負担(一部負担)をしなければならぬ。障がい者と事業者への軽減策を市独自にできないか。

現在、在宅重度障害者手当はあります。十九年度に障害者長期行動計画を策定するので、その中に位置づけ、包括的に検討します。



新行革大綱に住民の意見

新行革大綱は住民への説明や意見聴取が必須要件だ。

総合振興計画策定は、現行議員の任期中に行なうべきではないか。

基本計画も作成するためには時間がかかり、議員任期を挟むこととなります。

市長公約の日本一の市とは

市長公約で日本一の市を目指すところがあるが、どのようなことか。

単に合併で十万人の市になったというだけではなく、パワフルな市にしたいと考えております。三位一体改革の

一般質問

は、市民の憩いの場、交流の場として検討を進め、イベントや音楽堂といった施設ではなく、多目的広場を備えた公園です。現行で進めていきます。

市民債を活用しては

市民自治を理念に「市民と行政がともに支える公共」とは首長の一致した行政目標と思うが、この観点から市民から共感と理解を得られる市民債の活用は。

また、この市民公募債の対象事業として給食残飯、落葉等を利用した堆肥場の早期建設を推進すべき。

市民債のメリットといったしますと、地域住民が資金の供給者になることで、行政への参加意識の高揚が期待できるとともに、地方公共団体が発行する債券であるため、地域住民は安全性に対する信頼感を得ることが出来ます。今後、研究をさらに進め、導入に向けて検討をしていきます。

都市計画区域の一体化

ふじみ野市の都市計画区

ます。

域を一体化する必要がある。

旧上福岡地域が上福岡都市計画、旧大井地域が富士見都市計画となつていますが、都市計画区域については、市の区域を一体的都市として総合的に整備し保全する必要がある区域として指定することになっております。そのため富士見市や三芳町と協議を進めていきます。

北野・藤間陸橋を自転車を通れるように 北野・藤間陸橋を自転車を通れるようにしていただき

条件を整理し、前向きに努力してまいります。

〈学 校〉

旧大井(仮称)第7小 開校はいつ

旧大井(仮称)第七小の開校は十九年四月と公表された。常任委員会の質疑で、教育委員会は二十年の開校でも厳しい状況と答弁している。市長はどう考えているのか。

「十九年四月に」と言い、資金計画をし基金を積み立て

全学級で35人学級を

全国の道府県で実施されている少人数学級を、ふじみ野市独自で実施する場合の課題は何か。また市長が公約した「二十五人学級の順次実施」を実現するには、どのようなスケジュールで準備しているか。

課題は教員や教室の数などです。教室増など、物理的にできるかどうか見ながら、順次準備してまいります。

児童生徒の個別指導

不登校児童生徒数は、年々増加し深刻な問題になっている。児童生徒の状況に合わせての個別指導記録の作成・管理・引き継ぎと、解決に向けての対策は。

校長会などで不登校の実態を早めに把握し、状況に応じて解決へ向けて対応します。個別指導記録は作成し、担当者が転任の場合も速やかに申し送ります。

大型事業の見直しを

桜通線は一期計画(一八〇メートル区間)で「足どめ」となったが、これまでの事業費はいくらか。また、東西連絡道路が当初計画から五年延長となったが理由は何か。

一期で三億円、二・三期で四三億円かかります。東西連絡道路は六五億円の予定ですが、整備基金が十八年度でなくなり、事業期

影響で自治体財政は厳しいですが、産業を拡大して税収をアップさせ、さらに住民との相互信頼を強めるなどして、福祉や教育に力を入れ、若者が夢を持てる快適なまちを目指します。そのためには公平、公正であること。絶えず組織の見直しを行ない、行政の活力をつくってまいります。

市の基本構想策定

ふじみ野市の将来像を明確にするために、基本構想、総合基本計画を策定する必要があります。そのスケジュールと市民参加の委員会構成は。

十七年度中に基礎調査等を行ない、十八年度には市内体制を整え、市民ニーズの把握や意見集約のための市民懇談会を開催いたします。委員会構成は学識経験者や市民代表等を含めた構成にする予定です。

新総合振興計画策定前に行政評価を

行政の行なう事業を客観的に評価することで、市民と行政とで問題意識を共有できる。新総合振興計画・基本構

想の策定前に行政評価を行なうべきでは。

総合振興計画を速やかに策定する必要があります。時間的な余裕がありません。事務の評価は集中改革プランとあわせて検討します。

都市政策の充実を

都市政策の充実、公共性の重要性と官・民の役割分担の明確化、合併を機に誇れる地域性の特徴を出す企画や楽しい通称、少子高齢化への協調的な政策や先人の知恵の活用等、まちづくりのために市長の諮問機関が必要では。

ご指摘の点については総合計画審議会で十分検討し、愛称については募集します。また、保育所のボランティア活用で二世世代の交流を進めます。

福岡中央公園の野外音楽堂を見直しは

福岡中央公園は合併前は野外音楽堂として計画された。合併により条件が変わったのだから、現計画について見直す必要はないのか。

現行のワークショップで

今後の対応は

市長は、現在進行中の事業を含め、全ての事業の計画を精査し、検討、見直しを図るとしているが、北野・大原地域の防災上も必要不可欠であり、国庫補助事業である桜通線事業の今後の対応は。

桜通線については、現在一期工事が進行中であり、九〇%の用地確保が終了していますので、一期工事については予定どおり進めます。その後の二期・三期工事の計画は、事業をよく精査し、検討してまいります。

面整備へ

桜通線は平成二十二年度は面整備として提案されてきたが、住民合意なく単なる街路事業になってしまった。かつての考えを生かす道はないのか。

当初は沿道の共同化も視野に入れた計画でしたが、地権者の意向により街路事業になりました。今後、整備された街路を生かして面整備に進むことも可能であり、多くの住民のご参加をいたいて進めたいと思います。



整備中の桜通線